

| 田原市博物館 平成21年●秋の企画展 |

# 能に見る 日本の女性像

## — 能装束・能面の世界

2009年

8月22日<sup>土</sup> - 11月8日<sup>日</sup>

休館日 ● 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

※但し、9月21日<sup>水</sup>・10月12日<sup>水</sup>は開館し、9月24日<sup>土</sup>・10月13日<sup>水</sup>は休館します。

開館時間 ● 午前9時 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料 ● 一般 600円(480円) 小・中学生 無料

( )内は20名以上の団体割引料金

10月11日<sup>日</sup>は無料開放日 高校生は毎土曜日入場無料

主催 ● 田原市博物館、財団法人華山会、中日新聞社

後援 ● 愛知県教育委員会、NHK名古屋放送局

田原城は田原藩一万二千石の居城でした。能楽は、江戸時代には、武家の式楽となり、田原藩でも、元禄8年(1695)9月に、4日間ほど能が演じられ、翌年1月には、「高砂、田村、東北、籠田、猩々」と演目の記述も見られます。ほとんどは、三宅家藩主のために行われ、江戸出府あるいは国帰りの際、百姓まで参観を許され、赤飯も配られました。明治末年には、藩には、能楽の面が43面あり、能装束・小道具も伝来していました。また、田原藩家老渡辺華山も、天保3年(1832)の『客坐掌記』に、「勧進能舞台<sup>すい</sup>図、六月二十六日」と記述した勧進能の舞台を囲む群衆をスケッチした場面から始まる十二図を描いています。これは、江戸で行われた観世大夫の勧進能興行の様子を見物した際の記録と考えられるものです。

今回は、能装束の復原、制作により、能楽文化に貢献されている山口能装束研究所のご協力をいただき、江戸時代の能装束・能面を含めた多くの資料から文化として見つめられてきた女性像の歴史を感じていただく機会としたいと思います。



特別講座・公演 金春流本田光洋氏 ほか

